

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUYE EYE

Note

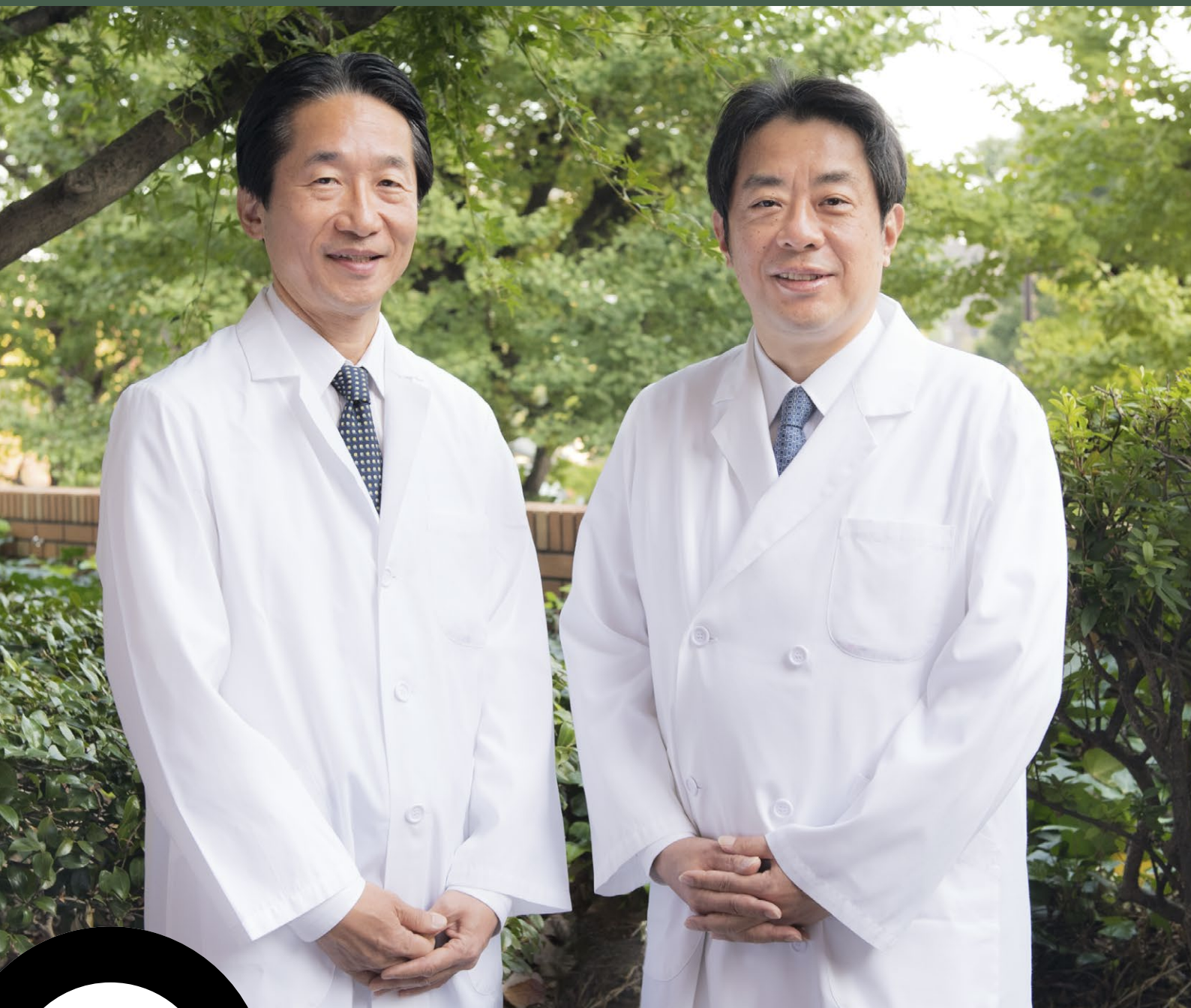
「人生100年時代」に求められる眼科医療を

先生の、見つめてきたもの〈vol.08〉 朴先生

札幌・大宮のホームページをリニューアル / いいもの見つけた！

2023
WINTER
vol. 123

ご自由にお持ちください。



井上眼科だより



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

公式フェイスブックで最新情報を発信しています。

「人生100年時代」に求められる眼科医療を

井上眼科病院とお茶の水・井上眼科クリニック。

グループの拠点を担う両者の特長とは、そして目指すべき医療とは、どのようなものでしょうか。新年号では、井上理事長と天野院長にお話を聞きました。



医療法人社団 済安堂 理事長
井上眼科病院 院長

井上 賢治

Kenji Inoue

お茶の水・
井上眼科クリニック 院長

天野 史郎

Shiro Amano

年間約5500件、 日本トップレベルの手術件数

——井上眼科病院では、主にどのような手術を行っていますか？

井上 約7割（4000件程度）が白内障です。難症例や合併症のある白内障手術も得意としています。それに眼瞼、緑内障、斜視、角膜移植なども合わせると、年間約5500件の手術をしています。厚生省の統計（令和2年度「DPC導入の影響評価に関する調査」）によると日本トップレベルの手術治療を提供できているようです。首都圏には大学病院や総合病院が多くある中で、眼科専門病院としてのメリットを最大限に発揮できている成果だと思っています（下記「手術件数内訳」参照）。

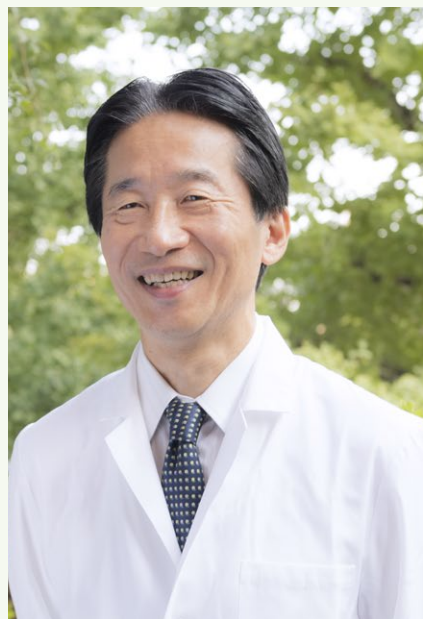
——眼科専門病院として、当院の強みとは何でしょうか？

井上 まずは手術できる医師が多く在籍していること。そして経験豊富な医師が自らの治療や技術を若手に教える「育てる文化」があることです。人が育つことで技術のレベルアップにつながりますから、後進育成には力を入れています。医師が教え合い、スキルを高め合う文化が、さまざまな手術を幅広くできる体制を生み出しています。

それに加え、眼科専門病院としての体制も大きなポイントです。当院には、麻酔科医が常勤しているため、全身点、当院のように、ひとつのクリニックで「あらゆる眼の病気を診ることができるといえるのは、患者さまにとっても心強いのではないのでしょうか。加齢や合併症などで複数の眼の病気を抱えてしまう場合もあります。そういったケースでも医師同士の意思疎通が取れているため、患者さまを複数のプロフェッショナルで支える体制が出来上がっています。そのため私自身も新しいことを学ぶ姿勢を大切にしています。井上理事長から「育てる文化」という言葉があったように、学んだ知見を後進に教えることで、今後も眼科専門病院としてバランスの良い医療を追求していきたいと思っています。

「人生100年時代」に 求められる医療とは？

——昨今、「人生100年時代」といわれ、健康のニーズがより高まっています。専門病院として、どういった姿勢が求められていると思いますか？



また入院生活では、眼帯などをした見えづらい状態になり、食事をとる・トイレに行くなど日々の生活でしていることを難しく感じる場合があります。そういった場面で、「見えづらさ」をよく理解するスタッフがスムーズに介助やサポートを行い、少しでも患者さまに快適な入院生活を送れるよう努めているところも眼科専門病院ならではだと思います。

天野 医療がどれだけ専門分化しようとも、私たちが向き合うのは患者さま一人ひとり。そのためにも、「患者さまの悩み」に最善の解決策を出す姿勢」が求められていると思います。専門病院として、あらゆる世代をカバーし、最先端・最良の医療を提供するためにも、人を育てる、最新の知見を取り入れる、最新機器を導入するなど、「アップデートし続ける病院」でありたいと思います。

井上 天野院長が言ったように「困ったときに手を差し伸べられる存在」でありたいと思います。その点を踏まえて、「眼」の総合病院として、Care「治療」からCare「生き方」の問題までアプローチできたらと考えています。まだまだ最新医学をもつても、失明やロビジョン（視覚障害）を無くすことはできません。患者さまにとっては、病気と共にするその後の歩みがあります。そういった側面にも寄り添える精神的な支柱でもありたいと思っています。

当院では、医師も職員も長いスパンで働いているため、患者さまともファミリーのようにお付き合いできることが強みです。

その強みをうまく活かし、治療だけでなく、患者さまと社会を橋渡しする部分にまで少し手を伸ばしながら、患者さまの眼の生涯をサポートしていきたいですね。

あらゆる眼疾患に対応する20の外来

——一方、井上眼科クリニックは専門外来が充実していますが、その理由は何でしょうか？

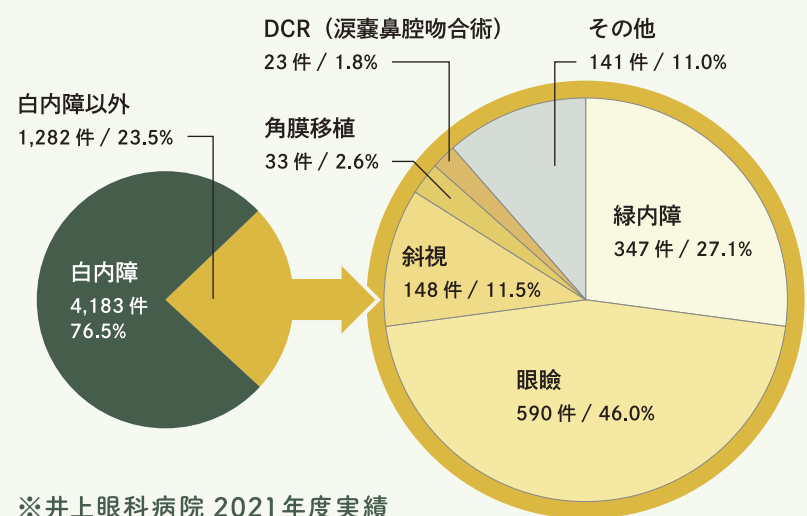
天野 クリニック開院当時（2006年）、外来は6つでしたが、2023年現在は20まで拡充されました。これは近年のテクノロジーの目覚ましい進歩によって医療機器の種類が増えたこと、それに伴い、研究が進んで疾患への理解が深まった結果でもあります。

また患者さまのニーズが時代とともに変化している点も大きいです。40年前の白内障手術では「視力回復」を目的としていましたが、「最近では「見え方の質」が問われており、眼内レンズのバリエーションも豊かになっています。こうした患者さまの満足度にも手を伸ばしていくことも眼科治療のトレンドになっているように感じます。これらの変化を受けて、当院でも積極的に最先端の機器を導入し、専門外来を段階的に発展させてきました。

——眼のプロフェッショナルとして、患者さまにどう向き合っていますか？

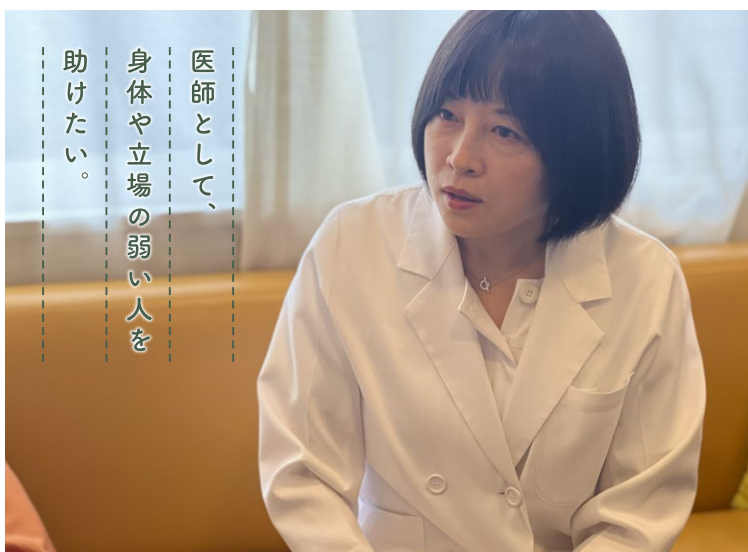
一方で医療の専門化が進み、「一人の医師が全ての診療をカバーすること」が難しい状況になっています。その

お茶の水手術件数内訳：5,465件（レーシック除く）



※井上眼科病院 2021年度実績





医師として、
身体や立場の弱い人を
助けたい。

2022年に医局長に就任した朴先生。
これまでのキャリアの変遷や、
医師として
大切にしてきたことを伺いました。

朴 華

Ka Paku

西葛西・井上眼科病院 医局長

2017年5月 東京大学医学部附属病院 初期研修終了。

2017年6月 井上眼科病院に入局。

2019年4月 西葛西・井上眼科病院に入局。

医師になりたかった父の想いを継ぎ 志した医師への道

子どもの頃は本を読むのが好きな文学少女でした。医師になろうと思ったのは、医師になりたかった父親の影響が大きいですね。それから、自立して働くことを大事にする親の教育方針や、父親が体調を崩して入院した際に出会った医師の方々に感化された部分もあって、高校生の時には自然と医師の道を志すようになりました。

中国の大学の医学部を卒業後、日本での留学経験を持つ祖父に影響されたこともあって、1年間日本語を勉強してから九州大学の大学院に入り、神経免疫の研究をしていました。ですが、患者さまにもっと近い所で治療を行う方がやりがいにつながると感じ、臨床に切り替えたいです。眼科を選んだのは、もともと細かい作業が得意で精密な操作や技術を要する眼科の手術に興味があったからです。もし眼科に進むなら、眼科手術の中でも難易度の高い硝子体の手術に挑戦したいと思っていました。

第一線で活躍する医師から 多くを学んだ研修医時代

井上眼科病院に入局したのは、眼科の中でも有名でしたし、歴史がある病院だと聞いていたからです。後期研修医の時にお茶の水へ入り、眼科医としてさまざまなことを学びました。各専門の先生方の外来の様子を見学し、白内障のエキスパートである徳田先生をはじめとする第一線で活躍されている先生方から手術のやり方を日々教わり、入局後のスキル習得にとっても役立ちました。

お茶の水で経験を積んだ後は1年間外部の病院へ出向しましたが、もともと硝子体手術をやりたいと思っていたので、出向後は西葛西・井上

眼科病院で働くようになりました。経験豊富で高い技術力の先輩医師を目の当たりにして、挑戦を躊躇っていましたが、チャンスを与えていただき一歩を踏み出すことができました。初めて自分が施術をした時は、感動しましたね。

日々研鑽を積みながら 患者さまに適した一番いい医療を提供したい

西葛西へ来て3年経った今は、一般眼科と小児眼科の診療、白内障手術や硝子体の手術などを行っています。心掛けているのは、患者さまに適した一番いい医療を提供すること。眼科治療にはいろいろな治療法がありますから、患者さまの状況に寄り添って、一緒に相談しながら治療方針を決めています。そのためにも、的確な診断と治療を行うことは必須。他の先生方と日々情報共有をして勉強し、手術の腕を上達させていきたいですね。

患者さまから「世界の見え方が変わった、ありがとう」と言われた時は、うれしかったです。言葉の壁はありますが、誠意を持って接することで患者さまからの信頼を得ていきたいです。

2022年に医局長に就任し、責任も増したと感じます。日本に来てからたくさんの方に温かくしていただいたので、医師の仕事を通してその恩返しをしたいです。「身体や立場の弱い人を助けたい」という医師としての軸を大切にしながら、医局の先生方が働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思います。



旅行好きで、歴史を感じる
京都が大好きです。

札幌・大宮のホームページをリニューアルしました。

井上眼科病院グループのホームページを順次公開予定です

この度、井上眼科病院グループと各施設のホームページを全面リニューアルいたします。スマートフォンでも使いやすく、WEB予約までが簡単になります。手術や治療法のページを充実させ、イベント関連の最新情報も配信する予定です。2022年に札幌、大宮のホームページを公開しました。お茶の水、西葛西も順次リニューアルし、これまで以上に使いやすいホームページを目指してまいります。乞うご期待ください。



札幌・井上眼科クリニック
新ホームページはこちら



大宮・井上眼科クリニック
新ホームページはこちら



▲札幌・井上眼科クリニック



▲大宮・井上眼科クリニック

INFORMATION

お茶の水 耳鼻咽喉科・眼科セミナーを開催しました

同じ千代田区にある耳鼻咽喉科専門の神尾記念病院と3年ぶりに合同セミナーを開催しました。第7回目となる今回は新型コロナウイルス感染対策をテーマに、医師をはじめ看護師や事務職などさまざまな職種の方が講演しました。他病院との連携を深め積極的な情報交換を行うことで、日々の診療に活かしています。



グループ 井上理事長が三宅島で診療を行いました

井上眼科病院と西葛西・井上眼科病院では、年3回三宅島三宅村の眼科医療支援を行っています。2022年11月には井上理事長が自ら訪問し診療しました。視能訓練士も同行して現地でする限りの検査を行い、必要であれば井上眼科病院で手術や治療を実施します。当院グループでは、今後も東京都の離島医療に貢献してまいります。



いいもの「見」つけた！

先生たちが最近見つけた、身近な“いいもの”をご紹介します！

11月23日にサッカーW杯の日本対ドイツ戦を「見」ました。強豪ドイツ相手に日本が2-1で見事勝利しました。暗いニュースも多い1年でしたが、久しぶりに明るいニュースを「見」ることができてよかったです。



高井 康行
Yasuyuki Takai
井上眼科病院
医師



友人に誘われてトルコランプ作りを体験しました。ガラスや鏡・ビーズをひとつひとつ貼り付け、石膏で固めて出来上がります。壁に映るランプの光はやわらかく幻想的で「目」と心をほっこり和ませてくれます。



荒井 桂子
Keiko Arai
西葛西・井上眼科病院
看護部長

